

こども未来課通信 No. 30

2024. 3. 19 発行:長崎県こども未来課



～大変お世話になりました。～

園では、卒園式も終わりホッと一息、今年度のまとめをしているところでしょうか。長崎県幼児教育センターを4月に開設してから、あっという間に1年間が過ぎていきました。今年度は訪問支援、研修を中心に業務を行ってまいりました。来年度も、園に寄り添った支援をし、幼児教育センターの認知度が更に上がるようにがんばります。

～令和6年度の研修計画～

来年度の研修についてお知らせいたします。下の(1)～(5)の他にも、初任や中堅の先生向けのオンライン研修なども計画しております。随時、お知らせいたしますので、奮ってご参加ください。

(1) 園長等運営管理協議会

テーマ:「遊びの中の学び」

期日・場所:令和6年6月13日(木)長崎県庁1階大会議室

6月14日(金)私立幼稚園等にて公開保育と協議会の予定です。

(2) 幼児期の教育・保育力向上研修会

テーマ:「小学校から見た幼児期における生活習慣と学ぶ力について～運動遊び実技研修～」

期日・場所:令和6年8月23日(金)長崎県立総合体育館

(3) 幼児教育研究協議会1(都道府県協議会)

※「第52回 長崎県国立公立幼稚園・こども園協会研究大会対馬大会」同時開催です。

共通協議主題「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」

研究園:対馬市立巖原幼稚園

期日・場所:令和6年10月25日(金)対馬市立巖原幼稚園

(4) 幼児教育研究協議会2

協議主題「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」

研究園:学校法人松尾学園 認定こども園いなさ幼稚園

期日:令和6年11月予定 会場未定

(5) 幼児期の特別支援教育研修会

テーマ「関わり方が難しい子への対応、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用について」

期日・場所:令和6年11月14日(木)長崎県庁3階会議室

～令和5年度の訪問支援内容と園の声～

①保育について

外から自分の保育についてアドバイスを受けることで、気づきがたくさんある。アドバイザーから認めてもらうことで、今まで行ってきた自分の保育に自信がつく。

②指導計画について

指導案の基本、考え方がわかる。これまで長く抱えて問題が一気に解決できた。

③関わり方の難しい子供について

職員の共通理解、園全体で協力しながら保育にあたるのが大切だと改めて考え直すことができた。一緒になって考え、悩みを共有していただき、心から感謝している。

④指導要録の書き方について

これまでは、自分なりの言葉で、一人一人の成長やありのままの姿を記入していたが、子供の姿を小学校の先生に分かりやすく伝えることの大切さを再確認した。

⑤不適切な保育の防止について

ニュースでよく耳にするようになり、どこからが不適切な保育か、自分でも自信がもてない部分があったが、グループワークで話し、「もし、身内がされたら」ということを考えるなど、アドバイスをもらったことで、自分の中で線を引くことができた。

⑥食育について

資料を多くいただき、年間計画が立てられそうである。ありがとうございました。

「訪問支援ってどんなことをするのだろう」支援内容のイメージがつかめない中、多くのご依頼をいただきまして、誠にありがとうございました。来年度もご依頼の際は、ホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください
(文責：高田 敦)



(幼児教育センター直通 095-895-2686)



幼児教育センターより

長崎県幼児教育センターができて1年が経とうとしています。

センターには、県内の幼保小連携をもっと進めたいという強い思いがあります。そこで、各市町の幼児教育・保育施設の所管課と小学校の所管課に向けて、会議を2回しました。また、直接出向き、幼保小連携を進めてくださいとお願いをして回りました。

ある市町では初めて園長・施設長と小学校長を一堂に集めて、幼保小連携について考える場をつくっていただきました。そこで、センターの高田が架け橋プログラムや連携の必要性とメリットなどについて話し、室野が幼児期の子どもの学びを中心に話しました。話の後、地区に分かれて、グループ協議をする場がありましたが、その話合いが大変活発で、「夏休みに小学校教諭が保育を見に行くことにした。」と決めたところが複数ありました。まずは、お互いの教育・保育を知るところから。大きな第一歩です。

この1年の成果として、令和5年度、新たに幼保小連携を推進する協議会などを設置した市町が2か所、6年度または7年度の設置に向けて動き始めたところが4か所、前向きに検討を始めたところも増えています。これからも働きかけていきます。

(副センター長 室野)